

■目指す学校の姿

(理念)

1. 人には基本的欲求がある。学校は生徒、教師、保護者にとって欲求充足できる場所である。
2. 競争でなく、協力する事で最高の学習ができる。
3. 強制のあるボスマネジメントではなく、リードマネジメントの環境で生徒は成功する。
4. 脅したり、罰したりしないで、問題は話し合っ解決する。
5. クォリティ（上質）は自己評価を通して達成される。

参考文献：『選択理論集中基礎講座ワークブック』（柿谷正期著）

(基準)

1. 規律違反の問題は減少している、もしくは皆無と言える。
2. 学力テストを奨励するわけではないが、学力テストを実施したとき、全国平均点を上回っている。
3. 生徒は学科で A(優あるいは 5)もしくは B(良あるいは 4)の成績を取っている。それに達していない場合、教科を理解していることを教師に示すことで成績を変更できる。
4. 生徒は全員何らかの上質な取り組みをしている。趣味の領域でも良い。縄跳びが得意、ジャグリングができる、スポーツで優れている、カブトムシに詳しい、メダカを育てるのが上手、等。
5. 教員、生徒、保護者は選択理論を学び、実生活で実践している。7つの致命的習慣は使われなくなっており、身に付けたい7つの習慣が顕著である。
 - ・ 7つの致命的習慣：批判する、責める、文句を言う、ガミガミ言う、脅す、罰する、褒美で釣る。
 - ・ 身に付けたい7つの習慣：受け入れる、違いを交渉する、励ます、尊敬する、耳を傾ける、信頼する、支援する。
6. 最初の年の終わりまでに、学校が喜びに満ちた学習環境になっている。

参考文献：『グラッサー博士の選択理論』（柿谷正期訳） pp. 464